



と、もう一口飲もうとしたとき、殿さまの頭上の低くのびている松の枝から、一匹の松ケムシが、殿さまの飲んでいる器に飛び込みました。

殿さまは、びっくりして、その器を投げ捨て、大きな声で、

「ぶれいもの無礼者、このにつつき松ケムシめ。ここにこんな松があるからだ。この松をすぐ切れ」と、命じました。すぐその場で、この老松は切られてしまったのです。

お城に着くころから殿さまは、気分が悪くなり、起きていられなくなり、お城に着くと